

平成27年度中央区支え合いのまち推進計画の進捗状況

資料2

川戸地区部会

重点取組項目	27年度の目標	27年度の実績	自己評価	判断根拠	今後の課題
2 ボランティア活動の仕組みづくり	高齢者や障がいのある方の支援事業として、日常生活のちょっとした困りごと等の手伝いをする「お助け隊」を開始する。	平成27年4月から、地区部会が、高齢者や障がいのある方を対象に、簡易な草刈り、草むしり、簡易な大工仕事、家具の移動、電球交換、話し相手等、日常生活のちょっとした困りごと等の手伝いをする「お助け隊」を開始した。60件お手伝いし、高齢者や障がいのある方の生活の一部を支援した。	A	地区部会の13町内自治会すべてで実施している。 登録ボランティア 約35人 コーディネーター 2人	活動拠点や活動経費の確保。 担い手不足で役員に負担がかかっている。
3 見守り体制をつくる	地区部会が、地域の各種団体等とのネットワークを強化し、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な見守りや声かけによる安否確認等、地域で安心して暮らせるよう、継続して見守り活動を実施する。	地区部会が、高齢者や障がいのある方など支援が必要な方(23世帯)を対象に、日常的な目配りや声かけによる安否確認等を行い、安心して地域で暮らせるよう見守り活動に取り組んだ。	A	地区部会の13町内自治会すべてで実施している。 コーディネーター 33人 協力員 48人	
18 地域での福祉教育の推進	地区部会活動をはじめ地域の福祉活動に、児童・生徒がボランティアとして参加できる機会を設ける。	児童・生徒にボランティア体験の機会を通じて、地域への関心を高めてもらうため、小中学校の協力を得て、敬老会や地区運動会でのボランティア活動を通じ、福祉の心を育む機会を設けた。	B	敬老会で小学生45人、地区運動会で小中学生100人にボランティア体験の機会を設けた。	
19 地域環境を学ぶ	児童・生徒に、自分たちの住んでいるまちについて、知ってもらう機会を設ける。	第21地区町内自治会連絡協議会が実施した、避難所への避難訓練に児童・生徒が参加し、避難経路を確認しながら、地域環境を知ってもらう機会を設けた。	A	訓練に参加した子ども達50人に地域環境を知ってもらう機会を設けた。	

【自己評価の目安】

- S: 目標を上回った。
- A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
- B: 一部目標を達成した。(5~7割)
- C: 大きく目標を下回った。(~4割)

平成27年度中央区支え合いのまち推進計画の進捗状況

中央東地区部会

重点取組項目	27年度の目標	27年度の実績	自己評価	判断根拠	今後の課題
3 見守り体制をつくる	地区部会が、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な目配りや訪問による安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、見守り活動を開始する。	平成27年7月から、地区部会が、ひとり暮らし高齢者などの内、見守りを希望する方(116世帯)に対し、目配りや訪問による安否確認を開始し、地域で安心して暮らせるよう、継続して見守りに取り組んだ。	A	年度計画どおり活動を開始した。 地区部会の全町内自治会で継続して実施している。 目配り 93世帯、訪問 23世帯 協力員 142人	子育てサロンの会場が狭いことから、広い会場の確保が必要である。 担い手不足 (若い人に積極的に参加して欲しい。) 事業継続のための資金確保 (立ち上げ経費だけでなく、事業維持のための継続した助成金制度が必要である。)
9 子育てサロンの充実	地区部会が、子育て中の親子とボランティアが自由に語り、情報交換することを通じて、子育て親子の仲間づくりを図るため、年6回、子育てサロンを実施する。	地区部会が、子育て中の親子を対象に、年6回、親子とスタッフの交流、保健師による子育て講座、紙芝居等を内容とした子育てサロンを実施し、子育て親子の仲間づくりに取り組んだ。	A	年度計画どおり実施した。 奇数月、年間 6回実施。 (前年度5回。1回増加) 年間参加者見込:60組 120人 (前年度 39組 82人 53%増)	

【自己評価の目安】

S: 目標を上回った。

A: 概ね目標を達成した。(8~10割)

B: 一部目標を達成した。(5~7割)

C: 大きく目標を下回った。(~4割)

平成27年度中央区支え合いのまち推進計画の進捗状況

寒川地区部会

重点取組項目	27年度の目標	27年度の実績	自己評価	判断根拠	今後の課題
3 見守り体制をつくる	地区部会が、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な見守りや声かけによる安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、継続して見守り活動を実施する。	6町内自治会すべてにおいて、災害時要支援者の内、見守りを希望する方に対し、各町内自治会が行いやすい手法により、目配りや声かけなどの見守り活動を実施した。	A	地区部会の全町内自治会で、週1回以上実施している。 利用者 52人	地区部会の基盤となる町内自治会の担い手が不足している。 活動の担い手が高齢化している。 (若い人が出てこない)
4 災害時に支援を必要とする人の避難支援	地区部会が、災害時に避難支援を必要とする方に対する支援者を募り、災害時要支援者の避難支援体制の構築に努める。	地区部会が、町内自治会の協力を得て、災害時要支援者の近隣の方に支援者(避難を手伝う協力者)として登録いただき、「災害時要支援者及び支援者名簿」を作成して、避難支援体制を構築し、6町内自治会の内、5町内自治会で避難訓練を実施した。	B	避難支援体制の構築が出来ている。 6町内自治会の内、5町内自治会で避難訓練を実施した。 (実施町内自治会 83%)	
18 地域での福祉教育の推進	地区部会活動が、児童・生徒にボランティアとして参加できる機会を設ける。	地区部会が、寒川小学校5年生を対象に、車椅子体験講座を年1回開催した(80人の児童が参加)。 また、敬老会に寒川小学校・末広中学校の吹奏楽部(約110人)が参加し、合同で演奏する機会を設け、活動を通じて、福祉の心を育む機会を設けた。	A	年度計画どおり、ボランティア体験の機会を設けた。	
21 防災体制の充実	町内自治会が、年1回、防災訓練や防災講座を実施して、地域の防災体制の充実を図る。	6町内自治会の内、5町内自治会で防災訓練や防災講座を実施した。	B	6町内自治会の内、5町内自治会で訓練や防災講座を実施した。 (実施町内自治会 83%)	

【自己評価の目安】

S: 目標を上回った。

A: 概ね目標を達成した。(8~10割)

B: 一部目標を達成した。(5~7割)

C: 大きく目標を下回った。(~4割)

平成27年度中央区支え合いのまち推進計画の進捗状況

都地区部会

重点取組項目	27年度の目標	27年度の実績	自己評価	判断根拠	今後の課題
3 見守り体制をつくる	各町内自治会と協議を続け、ひとり暮らし高齢者が安心して地域で暮らせるよう、将来的に全町内自治会で見守り活動を実施できるよう努める。 見守り体制が整うまでは、防犯パトロールにより、地域の見守りを行う。	10町内自治会中、2町内自治会で、75歳以上のひとり暮らし高齢者のうち見守りを希望する方を対象に、月1回、声かけによる見守りを実施している。 都地区を4ブロックに分け、各ブロックで月3回程度、防犯パトロールを行っており、見守りに類似した活動は行っている。 地区部会の役員会等で、未実施の町内自治会に対し、見守り活動への理解を求めたが、見守り活動を実施する町内自治会の増加には至らなかった。	B	防犯パトロールを継続して実施している。 見守り体制を整えた町内自治会の増加なし	担い手が不足している。
6 ふれあいいきいきサロンの充実	地区部会が、高齢者の閉じこもり防止や仲間づくりを図るため、月1回、いきいきサロンを実施する。	地区部会が、月1回、65歳以上の高齢者を対象に、健康体操や手芸等を内容とした、いきいきサロンを実施し、高齢者の閉じこもり防止や仲間づくりに取り組んだ。	A	年度計画どおり実施した。 年 12回実施。 (前年度 12回実施) 年間参加者見込 170人 (前年度 168人 前年度並み)	
9 子育てサロンの充実	地区部会が、子育て中の親子とボランティアが自由に語り、情報交換することを通じて、子育て親子の仲間づくりを図るため、月1回、子育てサロンを実施する。	地区部会が、月1回、子育て中の親子を対象に、親同士の情報交換や育児相談、絵本読み聞かせ等を内容とした、子育てサロンを実施し、子育て親子の仲間づくりに取り組んだ。	A	年度計画どおり実施した。 年間 12回実施。 (前年度 12回実施) 年間参加者見込 87組 208人 (前年度 117組 259人 26%減)	

【自己評価の目安】

- S: 目標を上回った。
- A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
- B: 一部目標を達成した。(5~7割)
- C: 大きく目標を下回った。(~4割)

平成27年度中央区支え合いのまち推進計画の進捗状況

末広地区部会

重点取組項目	27年度の目標	27年度の実績	自己評価	判断根拠	今後の課題
3 見守り体制をつくる	ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な目配りや声かけによる安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、見守り活動の体制づくりについて検討する。	地区部会や4町内自治会の役員会等で、災害時要支援者の内、見守りを希望する方に対し、各町内自治会が行いやすい手法により、目配りや声かけなどの見守り活動が実施できるよう協議した。 1町内自治会では、見守り協力員を募り、見守り希望者と協力員の調整を進めている。	B	地区部会や町内自治会の役員会等で、検討している。 一部町内自治会で、実施に向けての体制づくりが出来つつある。	役員やスタッフが高齢となっているため、若い世代の確保が必要である。

【自己評価の目安】

S: 目標を上回った。

A: 概ね目標を達成した。(8～10割)

B: 一部目標を達成した。(5～7割)

C: 大きく目標を下回った。(～4割)

平成27年度中央区支え合いのまち推進計画の進捗状況

ちば中央地区部会

重点取組項目	27年度の目標	27年度の実績	自己評価	判断根拠	今後の課題
4 災害時に支援を必要とする人の避難支援	第3地区町内自治会連絡協議会が、災害時を想定した防災訓練を年1回実施する。	第3地区町内自治会連絡協議会が、年1回、地域住民の参加を呼びかけ、消火訓練やAED訓練を内容とした、防災訓練を実施し、防災意識の向上に取り組んだ。	B	年1回実施した。(地区部会も参加した) 避難支援体制は出来ていない。 避難所運営委員会設立の機運は出来つつある。	町内自治会との連携を深める必要がある。
5 すべての子どもを地域で育てる	青少年育成委員会が中心となり、子ども達の安全を守るため、学校と地域が連携し、セーフティウォッチャー活動を実施する。	青少年育成委員会が中心となり、学校の登下校時に合わせ、セーフティウォッチャーを実施した。民生委員、町内自治会役員、老人会、育成委員等、地域全体で100名以上が協力し、子どもの安全のための見守りに取り組んだ。 また、PTAが中心となり、「こども110番のいえ」に取り組んでいる。	A	地域の各団体が協力し、活動を継続している。	
15 障がい者施設でのボランティア体験の推進	地区部会が、地域の障害者施設でボランティア活動を行い、障がい者との交流を図る。	地区部会のボランティア委員会が、年10回、亥鼻福祉作業所を訪問し、パンフレット封入れ、カレンダー巻、郵便物のシール貼り等の軽作業を手伝い、交流を図った。 また、敬老会の際、亥鼻福祉作業所の売店を設け、障がい者の地域交流に取り組んだ。	A	年度計画どおり実施した。	
18 地域での福祉教育の推進	地区部会が、地域の福祉活動に、児童・生徒がボランティアとして参加できる機会を設ける。	敬老会の際、小学校、中学校、高校の児童・生徒が参加し、歌や踊りを披露するなどのボランティア体験を通じ、福祉の心を育む機会を設けるとともに、高齢者との交流を図った。	A	ボランティア体験の機会を設けた。	

【自己評価の目安】

S: 目標を上回った。

A: 概ね目標を達成した。(8~10割)

B: 一部目標を達成した。(5~7割)

C: 大きく目標を下回った。(~4割)

平成27年度中央区支え合いのまち推進計画の進捗状況

西千葉地区部会

重点取組項目	27年度の目標	27年度の実績	自己評価	判断根拠	今後の課題
3 見守り体制をつくる	地区部会が、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な見守りや声かけによる安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、継続して見守り活動を実施する。	6町内自治会すべてにおいて、65歳以上の高齢者や障がい者の内、見守りを希望する方に対し、各町内自治会が行いやすい手法により、目配りや声かけなどの見守り活動を実施した。	A	地区部会の全町内自治会で継続して実施している。 見守り利用者 約 200人	
4 災害時に支援を必要とする人の避難支援	災害時に備えて、平常時から迅速な避難が出来るよう、地域の福祉マップを作成する。 また、避難所運営委員会が、避難所に避難してきた人々に対してスムーズな受け入れが出来るよう、訓練を実施する。	民生委員が中心になって、民生委員が把握している情報を基に、災害時要支援者の同意を得て、名簿と対象者を地図に落とし込んだマップを作成し、町内自治会と情報を共有している。名簿とマップは毎年更新している。災害時には日常的な見守り活動を行っている協力員が避難支援を行う体制をとっている。 また、地区部会内の避難所(登戸小学校)で訓練を年1回実施した。	A	予定どおりマップの更新を行った。 予定どおり避難訓練を実施した。(参加者 約 200人)	
21 防災体制の充実	地区部会では、事業計画に基づく防災講座を通じて、住民の防災に対する意識の高揚を図る。 また、各町内自治会では、防災講座や防災訓練を年1回実施する。	地区部会が、年1回、地域住民や地区部会役員を対象に、防災意識の啓発や赤十字救急法等を内容とした防災講座を開催した。 また、6町内自治会すべてに自主防災会があり、各防災会で年1回、安否確認、避難訓練、初期消火・応急手当訓練、非常食配布、発電機機動実演などの訓練や防災講座を実施した。	A	予定どおり防災講座を開催した。 予定どおり各町内自治会で訓練を実施した。	地域との関わりを持ちたがらない方や防災意識のない方に、どのようにしたら訓練に参加していただけるのか。 企業・学校の寮の住民が参加していただけるようにならないか。

【自己評価の目安】

S: 目標を上回った。

A: 概ね目標を達成した。(8~10割)

B: 一部目標を達成した。(5~7割)

C: 大きく目標を下回った。(~4割)

平成27年度中央区支え合いのまち推進計画の進捗状況

中央地区部会

重点取組項目	27年度の目標	27年度の実績	自己評価	判断根拠	今後の課題
3 見守り体制をつくる	地区部会が、各町内自治会と協議を続け、将来的に全町内自治会で見守り活動を実施できるよう努める。	7町内自治会中、2町内自治会で、75歳以上のひとり暮らし高齢者のうち見守りを希望する方を対象に、目配りによる見守りを実施している。 地区部会の役員会等で、未実施の町内自治会に対し、見守り活動への理解を求めたが、見守り活動を実施する町内自治会の増加には至らなかった。	B	実施町内自治会の増加なし	町内自治会との連携が困難。 (住宅地エリアと繁華街エリアの連携が難しい)
5 すべての子どもを地域で育てる	子ども達の安全を守るため、地区部会が中心となり、関係団体や学校と連携し、子供たちがこわい目に遭った時に安心して駆け込めるよう「子ども110番のいえ」への駆け込み訓練を実施する。	地区部会が、弁天小学校の1・2年生の希望者66人を対象に、3日間に分けて地区部会、子供会、PTA、青少年育成委員会の役員や教頭、担任(延べ40人)が引率して通学路付近の「子ども110番のいえ」22軒を訪問・挨拶し、子ども達と110番のいえの方が顔見知りになるよう取り組んだ。	A	日数:3日(6/23, 7/7, 7/10) 児童数:1年生43人中、37人 2年生38人中、29人 計81人中、66人 81% 引率者:延べ40人 110番の家:弁天小で58軒	
9 子育てサロンの充実	地区部会が、子育て中の親子とボランティアが自由に語り、情報交換することを通じて、子育て親子の仲間づくりを図るため、月1回、子育てサロンを実施する。	地区部会が、月1回、子育て中の親子を対象に、親同士の情報交換や栄養士・歯科衛生士からのお話し、絵本読み聞かせ等を内容とした、子育てサロンを実施し、子育て親子の仲間づくりに取り組んだ。	A	月1回、年間11回実施。 (8月は休み) 年間参加者見込 66組 132人	
20 防犯対策の推進	地区部会が、子ども達の安全を守るため、地区部会が、登下校時に「こどもみまもりたい」パトロールを実施する。 また、児童向けの安全教室を年1回実施する。	地区部会のボランティア委員会が、弁天小学校の1～2年生を対象に、通学路で、毎朝の登校時と毎週金曜日の下校時、学校と自宅の送り迎えを実施した。 「児童向けの安全教室」は、弁天小学校の1～4年生とその保護者を対象に、NPO「体験型安全教育支援機構」を講師に迎え、不審者に捕まりそうになった時の逃げ方を訓練した。	B	「こどもみまもりたい」パトロールを継続して実施した。 安全教室を実施した。 (参加者 12組 24人)	

【自己評価の目安】

S: 目標を上回った。

A: 概ね目標を達成した。(8～10割)

B: 一部目標を達成した。(5～7割)

C: 大きく目標を下回った。(～4割)

平成27年度中央区支え合いのまち推進計画の進捗状況

蘇我地区部会

重点取組項目	27年度の目標	27年度の実績	自己評価	判断根拠	今後の課題
1 地域支えあい連絡会の設置・推進	各種団体・関係機関のそれぞれの機能を活かしながら役割分担を明確にしつつ、地域の福祉課題を共有し、課題解決に向けた取り組みが行えるネットワークづくりのため、情報交換を行い連携・協働に努める。	地区部会とあんしんケアセンター蘇我が共同し、地域における福祉課題を共有し、課題解決に向けて継続的に各種団体・機関との連携・協働を図るため、18団体が参加する「地域ケア会議」を年2回開催した。 また、コミュニティ懇談会(年4回)や青少年育成委員会連絡会(年6回)に参加し、地域課題について情報交換を行った。	A	定期的に情報交換を行った。	備品や資料等を保管できる場所が必要である。
3 見守り体制をつくる	地区部会では、配布している「冷蔵庫保管用安心カード」について、地域の各種団体・機関とネットワーク化を図り、町内自治会未加入のひとり暮らし高齢者への配布について検討する。	地区部会が、地区内の8町内自治会を通じて、町内自治会に加入している全世帯を対象に配布している「冷蔵庫保管用安心カード」を、町内自治会未加入のひとり暮らし高齢者への配布について、8町内自治会や民児協と協議した。 地区部会の常任理事会、次年度の総会の承認を得て、配布する予定である。	A	町内自治会未加入のひとり暮らし高齢者への配布が見込めるようになった。	
4 災害時に支援を必要とする人の避難支援	災害発生時に備え、避難所ごとの「避難所運営委員会」が迅速に立ち上がるよう、年1回防災訓練を実施するとともに、避難所ごとの設備・備品の点検を行う。	地区内4か所の避難所すべてに「避難所運営委員会」が設立されており、各避難所運営委員会が、九都県市防災訓練の実施日に合わせ、避難所の設備・備品の点検等を行った。 また、千葉工業高校と5町会が共同し、地域住民や生徒を対象に、消火器、炊き出し、AED等の防災訓練を実施した。	A	避難所すべてで訓練実施した。	
7 地域での健康づくり支援の充実	地区部会では、高齢者の閉じこもり防止や健康維持を図るため、「ふれあい・散歩クラブ」等を定期的に実施し、高齢者の交流を図ります。	地区部会が、60歳以上の高齢者を対象に、健康維持や交流の場づくりを目的として、「ふれあい・散歩クラブ」を年3回、「ふれあい・いきいきサロン」を年9回実施した。特に「ふれあい・いきいきサロン」では、中央区保健福祉センター健康課、あんしんケアセンター蘇我の協力を得て、健康体操などのメニューを取り入れ、参加いただく高齢者の健康維持に努めた。 また、スポーツ振興会及び老人クラブで行っているスポーツ活動にも、地区部会として協力した。	A	年度計画どおり、散歩クラブを年3回、いきいきサロンを年9回実施した。 参加者(1回あたり平均) 散歩クラブ 30人 いきいきサロン 30人	

【自己評価の目安】

- S: 目標を上回った。
- A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
- B: 一部目標を達成した。(5~7割)
- C: 大きく目標を下回った。(~4割)

平成27年度中央区支え合いのまち推進計画の進捗状況

白旗台地区部会

重点取組項目	27年度の目標	27年度の実績	自己評価	判断根拠	今後の課題
1 地域支えあい連絡会の設置・推進	地域で活動している各種団体が参加しているコミュニティづくり懇談会が十分機能しており、昨年度は地域の福祉ニーズが最も多かった災害時の安否確認・避難支援・避難所の運営訓練を行った。本年は昨年手が届かなかった「福祉的配慮を必要とする人をケアする避難システム作り」に取り組む。 地域運営委員会については、コミュニティづくり懇談会が、そのまま移行することとし、本年は移行のための準備と、そのトライアルとして上記課題に取り組む。	7か所すべての避難所で、福祉的配慮を必要とする人をケアする内容を盛り込んだ避難所運営マニュアルに改定することができた。地域運営委員会については、予定どおりに準備が進み、来年度から、そのまま移行することが可能となった。	A	予定どおり、トライアル事業が達成できた。 コミュニティづくり懇談会から地域運営委員会への移行準備が進んだ。	
3 見守り体制をつくる	昨年までに一応完了した各町内自治会ごとの見守り体制について、継続・充実を図るとともに、町内自治会長等の交替により後退してしまった町内自治会に対して働きかけを強め、再構築を図る。	各町内自治会から現状とその後の見通しについて報告をしてもらい、その内容について情報交換会を開いたり、広報誌に掲載してレベルアップを図った。後退してしまった町内自治会についても、ほぼ元のレベルに戻すことは出来た。 また、毎年、見直しや周知を実施する活動が定着した町内自治会も増えてきた。	A	地区部会の41町内自治会で実施している。 活動のレベルの差が縮まってきた。	町内自治会長の交替により、取組みが後退しないようにするための仕組みづくりが必要である。
4 災害時に支援を必要とする人の避難支援	平成27年度は、地区部会の7か所の避難所のすべてで、「災害時の安否確認」、「避難支援」、「避難所立ち上げ・運営」訓練に加えて、「福祉的配慮を必要とする人をケアする避難システム作り」に取り組み、その趣旨を入れたものに避難所運営マニュアルを改訂する。	7か所すべての避難所で訓練を実施し、高齢者や障がい者、病人等の受け入れ訓練も実施できた。 また、7か所すべての避難所で、福祉的配慮を必要とする人をケアする内容を盛り込んだ避難所運営マニュアルに改定することができた。	A	避難所すべてで訓練を実施した。 マニュアルの改訂が出来た。	避難所による差が拡大しつつあるので、差を縮める必要がある。
5 すべての子どもを地域で育てる	「こども110番のいえ」への訪問・駆け込み訓練は前年度までに完了し、本年度は「あいさつ運動」を継続して実施する。 また、青少年育成委員会を中心に、町内自治会等が協力して実施している「不審者情報を地域で共有化し、対策を推進する体制づくり」を推進し、青色回転灯装着車によるパトロールを強化し、不審者の出没を半減させる。	あいさつ運動を継続して実施した。(新学期、夏休み明け、冬休み明けの2日間、15か所で強化実施) 不審者対応として、青色回転灯装着車によるパトロールを登下校時に合わせ、毎日、3台強実施し、不審者の出没半減を達成した。 青少年育成委員会で、地区の歴史散歩を毎年場所を変えて実施し、地域の歴史を理解し、地域を好きになってもらう事業を実施している。 3小学校(大森小・大蔵寺小・宮崎小)の子ども会では、餅つき大会、ポーリング大会、おにぎりパーティ等を実施している。 蘇我中学校1年生を対象に、「子どもによる子どものための権利条約」の読書に勧めと感想文募集を継続実施し、ほぼ全員(349人)の感想文が寄せられた。	S	あいさつ運動を継続して実施した。 青パト強化により、不審者の出没が半減した。	
6 ふれあい・いきいきサロンの充実	地区部会では、高齢者の閉じこもり防止や健康維持を図るため、「ふれあい・いきいきサロン」を定期的 to 実施し、高齢者の交流を図る。	地区部会が、高齢者を対象に、いきいきサロンを15会場で年間約150回実施しており、うち、5会場で月1回以上開催している。 サロンの内容については、交流の場の提供だけでなく、市の「出前講座」を取り入れ、ソフト面の充実も図っているところもある。	A	年度計画どおり実施した。 毎週(1会場)、 月2回(3会場) 月1回(1会場)、 年1回(10会場)	
7 地域での健康づくり支援の充実	地区部会では、高齢者の閉じこもり防止や健康維持を図るため、「ふれあい・散歩クラブ」を定期的 to 実施し、高齢者の交流を図るとともに、「ふれあい・いきいきサロン」において、定期的に介護予防や転倒防止運動を実施し、高齢者の健康増進を図る。	地区部会が、高齢者を対象に、月1回以上の散歩クラブを5か所で年間約100回実施した。 また、いきいきサロンにおいて、中央区健康課の保健師やあんしんケアセンター職員による講話や体操を取り入れ、高齢者の健康増進を図った。 地域の町内自治会の範囲で、将来の介護予防や健康づくりの推進を目的とする健康づくりサークルが出来てきた。	A	年間計画どおり実施した。 散歩クラブ 毎週(1会場)、 月2回(3会場) 月1回(1会場)	

平成27年度中央区支え合いのまち推進計画の進捗状況

白旗台地区部会

重点取組項目	27年度の目標	27年度の実績	自己評価	判断根拠	今後の課題
8 地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	地域の子どもたちに、スポーツや地域の歴史、文化を学ぶ機会を与え、子どもたちの健全育成を図る。	地区内の3小学校で「放課後子ども教室」を実施し、地域住民がボランティアとして協力している。 青少年育成委員会で、地区の歴史散歩を毎年場所を変えて実施し、地域の歴史を理解し、地域を好きになってもらう事業を実施している。 3小学校で、市民体育祭を実施し、その中で子どもの参加できる競技や、大人と一緒に参加する競技を設け、健全育成と共に近所の大人と知り合いになれた。 他にも、小学生球技大会(キックベース)、中学生球技大会(卓球)、中学生バトミントン大会等を実施した。	A	放課後子ども教室や、歴史散歩、各種スポーツ大会を実施した。	
9 子育てサロンの充実	地区部会が、子育て中の親子とボランティアが自由に語り、情報交換することを通じて、子育て親子の仲間づくりを図るため、月4回、子育てサロンを実施する。	地区部会が、子育て中の親子を対象に、2会場で、月2回、親子とスタッフの交流、保健師による育児相談、読み聞かせ、食生活改善推進員からの話等を内容とした、子育てサロンを実施し、子育て親子の仲間づくりを図った。 新規利用者にはアンケートを実施し、内容の改善に活用している。	A	月2回、年間40回実施。(祝日、お盆の時期、年始は休み)	
14 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	地区部会では、ボランティア講座を開催し、地域住民の福祉力の向上や福祉活動への理解と参加の促進を図る。	地区部会の6委員会が、地域住民、地区部会役員を対象に、既に活動している方の資質向上や、新たな担い手の発掘のための講座を、各委員会で企画、計7回開催し、地域住民の福祉力の向上に取り組んだ。	A	年度計画どおり実施した。	
20 防犯対策の推進	町内自治会では、防犯対策を推進するため、防犯パトロール隊を結成し、週1回以上のパトロールを実施するとともに、防犯教室や安全講習会を開催する。	育成委員会が、青色回転灯装着車によるパトロールを月曜日～金曜日の下校時に実施した。 また、第9地区連協49町内自治会のうち41町内自治会が、防犯パトロール隊を結成し、パトロールを実施した。 防犯教室は、各町内自治会で地域住民を対象に実施した。	A	年度計画どおり実施した。	
21 防災体制の充実	町内自治会では、防災会を設立し、年1回以上防災訓練を実施して、地域の防災体制の充実を図る。	第9地区町内自治会連絡協議会の49町内自治会中、45町内自治会で防災会が設立されおり、各防災会が、地域住民を対象に、消火訓練等の防災訓練を年1回以上行い、地域の防災体制の充実に取り組んだ。	A	年度計画どおり実施した。	

【自己評価の目安】

- S: 目標を上回った。
- A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
- B: 一部目標を達成した。(5～7割)
- C: 大きく目標を下回った。(～4割)

平成27年度中央区支え合いのまち推進計画の進捗状況

松波地区部会

重点取組項目	27年度の目標	27年度の実績	自己評価	判断根拠	今後の課題
9 子育てサロンの充実	地区部会が、子育て中の親子とボランティアが自由に語り、情報交換することを通じて、子育て親子の仲間づくりを図るため、月2回、子育てサロンを実施する。	地区部会が、子育て中の親子を対象に、月2回、中央区健康課の保健師による指導、読み聞かせボランティアによる本読み、お絵かき、季節のイベント(七夕、クリスマス)、スタッフ(助産師)による育児相談等を内容とした、子育てサロンを実施し、子育て親子の仲間づくりに取り組んだ。	A	年度計画どおり、月2回、年間22回実施。(8月は休み) 年間参加者見込 257組 529人	担い手の確保
17 福祉情報誌の充実と「中央区ふくし・防災ガイド&マップ」の活用	地区部会が、地域住民に対して、地区部会事業への参加者の増加を図るとともに、地区部会活動への理解者を増やし新たな活動の担い手を発掘するため、広報誌を年12回発行する。	地区部会が、地域住民を対象に、地区部会活動の紹介と啓発、会員の募集状況等の報告のため、A3版の社協だより「ゆめ」を年1回発行するとともに、毎月の地区部会事業の日程の周知やボランティア募集を図るため、A4版の社協だよりを、年11回発行した。	A	年度計画どおり実施した。 A3版 2,000部 全戸配布 A4版 120部 回覧	

【自己評価の目安】

S: 目標を上回った。

A: 概ね目標を達成した。(8~10割)

B: 一部目標を達成した。(5~7割)

C: 大きく目標を下回った。(~4割)

平成27年度中央区支え合いのまち推進計画の進捗状況

松ヶ丘地区部会

重点取組項目	27年度の目標	27年度の実績	自己評価	判断根拠	今後の課題
1 地域支えあい連絡会の設置・推進	地区の各種団体が、地区の課題や情報を共有し、地区の将来像や地域の実情に合った活動について話し合い、継続的、計画的に住民同士の「助けあい・支えあい」による地域運営を進めるため、「松ヶ丘中学校地区地域運営委員会」を設立する。	平成27年5月、地域の39団体が参加し、「松ヶ丘中学校地区地域運営委員会」が設立された。 本委員会に5つの部会（円卓会議、地域問題検討部会、広報部会、ふるさとまつり部会、ひだまり運営部会）を設け、地域住民の交流の場である「ひだまり」の運営、ホームページによる地域行事等の情報発信、ふるさとまつりの開催など、諸事業に取り組んだ。 また、円卓会議を月1回開催し、構成団体が、地区の課題や情報を共有し、地区の将来像や地域の実情に合った活動について話し合い、継続的、計画的な住民同士の「助けあい・支えあい」による地域運営に取り組んだ。	A	地域運営委員会が設立できた。 当初計画した諸事業が実施できた。	地域の団体が「顔の見える」関係を構築するため、会議等の頻度が多いことが重要。 また、そうした会議を行える活動場所が重要。 活動の継続性を図るため、議事録等を整理し事務局体制の整備が重要。
2 ボランティア活動の仕組みづくり	ひとり暮らし高齢者支援事業として、日常生活のちょっとした困りごと等の手伝いをする「お助け隊」を継続して実施する。	地区部会が、70歳以上のひとり暮らし高齢者を対象に、雑草取り、刈り込み、立木の一部伐採作業等、61件お手伝いし、ひとり暮らし高齢者の生活の一部を支援した。	A	登録ボランティア 約25人 H27年1月～12月実績 61件 (H26年1月～12月実績 65件)	
3 見守り体制をつくる	地区部会が、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な目配りや電話による安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、見守り活動を開始する。	平成27年4月から、地区部会が、ひとり暮らし高齢者や障がいのある方などの内、見守りを希望する方（手上げ方式）及び見守りが必要と思われる方、約50世帯に対し、目配りや電話による安否確認を開始し、継続した見守りに取り組んだ。	A	地区部会の全町内自治会で継続して実施している。 目配り 40世帯、電話10世帯 協力員 約 80人	
11 世代間交流の場の提供	高齢者、障がい者、児童、赤ちゃん連れの母親など、誰もが、朝から夕方まで気軽に出入りできる交流の場を設け、世代間交流を図る。	「ひだまり運営委員会」を設置し、月曜日から土曜日の間、役員が当番制で常駐し、誰もがいつでも立ち寄れる地域住民の交流の場を提供した。 高齢者の交流を中心に、小、中学生の自習や友人との交流の場として利用されている。 また、地域の各種団体の会議や親睦の場としても使用されており、他地区からの見学も増えている。	A	継続して運営した。 利用時間 10:00～17:00 (延長 21:00まで) ひだまりスタッフ 10人 年間利用者見込 約 8,000人 (前年度並み) 会議 20回、見学 10件	
16 中学校区相談・情報センター機能の充実	松ヶ丘中学校地区地域運営委員会が運用するホームページにより、地域のイベントや出来事を掲載し、情報発信に努めるとともに、「ひだまり」でスタッフが気軽に相談を受け付ける体制を整え、誰でも気軽に出入りでき、多世代の方が相談できる環境をつくる。	松ヶ丘中学校区地域運営委員会が毎月開催している「円卓会議」で各団体のイベントや活動の情報収集やPRに努め、運用するホームページにより、地域のイベントや出来事を掲載するとともに、「ひだまり」にサークル紹介や各団体のチラシを掲載、配布して情報発信に努めた。 また、「ひだまり」に役員が当番制で常駐し、問い合わせに対応し、その場で回答できないものは関係団体から回答する体制を整え、誰でも気軽に出入りでき、多世代の方が相談できる環境づくりに取り組んだ。	A	継続して運営した。 HPの更新頻度 約 50回 相談件数 約 35件 直接対応 30件、紹介 5件)	

【自己評価の目安】

- S: 目標を上回った。
- A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
- B: 一部目標を達成した。(5～7割)
- C: 大きく目標を下回った。(～4割)

平成27年度中央区支え合いのまち推進計画の進捗状況

星久喜地区部会

重点取組項目	27年度の目標	27年度の実績	自己評価	判断根拠	今後の課題
3 見守り体制をつくる	地区部会が、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な見守りや声かけによる安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、継続して見守り活動を実施する。	24町内自治会すべてにおいて、高齢者等の内、見守りを希望する方に対し、各町内自治会が行いやすい手法により、日常的な目配りによる安否確認を行い、安心して地域で暮らせるよう、継続して見守り活動に取り組んだ。	A	年度計画どおり、継続して実施した。 地区部会の全町内自治会で継続して実施している。 協力員 約260人	町内自治会長が毎年替わるころがあり、引き継ぎが難しい。 また、町内自治会長の交流が薄くなってきていると感じる。連携して事業運営するために交流の場や機会が必要である。
6 ふれあい・いきいきサロンの充実	地区部会が、高齢者の集える場を設け、仲間づくりや健康維持を図るため、年8回、「ふれあい・いきいきサロン」を実施する。	地区部会が、70歳以上の高齢者を対象に、青葉の森公園や都市緑化植物園の散策、あんしんケアセンターからの話等を内容とした、いきいきサロンを年8回実施し、高齢者の仲間づくりや健康維持に取り組んだ。	A	年度計画どおり実施した。 年 8回実施(7・8・9・1月は休) (前年度 8回実施) 年間参加者見込 279人 (前年度 286人 2.5%減)	
9 子育てサロンの充実	地区部会が、子育て中の親子とボランティアが自由に語り、情報交換することを通じて、子育て親子の仲間づくりを図るため、年10回、子育てサロンを実施する。	地区部会が、子育て中の親子を対象に、年10回、保健師さんのお話し会、読み聞かせ、食生活改善推進員による簡単なおやつ作り、星久喜保育所訪問、クリスマス会等を内容とした、子育てサロンを実施し、子育て親子の仲間づくりに取り組んだ。	A	年度計画どおり実施した。 年 10回(4・8月は休み) (前年度 10回実施) 年間参加者見込 110組 230人 (前年度 120組 240人 8%減)	
14 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	地区部会が実施している「いきいきサロン」において、参加者に対する健康講座を取り入れ介護予防について学習する機会を設けるとともに、地域行事でのボランティア体験等を通じて、地域住民の福祉力の向上や福祉活動への理解の促進を図る。	地区部会が実施している「いきいきサロン」において、あんしんケアセンター松ヶ丘の協力により、年1回、認知症予防体操等を取り入れ、介護予防について学習する機会を設けた。 また、小学校のお祭りにおいて、地区部会が設置した車椅子体験コーナーや、敬老会における小中学生のボランティア体験を通じて、地域住民の福祉力の向上や福祉活動への理解の促進に取り組んだ。	A	年度計画どおり実施した。	

【自己評価の目安】

- S: 目標を上回った。
- A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
- B: 一部目標を達成した。(5~7割)
- C: 大きく目標を下回った。(~4割)

平成27年度中央区支え合いのまち推進計画の進捗状況

生浜地区部会

重点取組項目	27年度の目標	27年度の実績	自己評価	判断根拠	今後の課題
1 地域支えあい連絡会の設置・推進	平成27年4月に発足する「生浜地区地域運営委員会」において、これまでの生浜地区における活動を引き継ぐとともに、地域運営委員会と地域の各団体との連携を強化していく。	「生浜地区地域運営委員会」の中に、「青少年部会」、「高齢者・要支援者部会」、「防災部会」の3つの部会を設け、従来の生浜地区における活動を引き継ぎ、具体化するための協議をした。 「青少年部会」では、生浜中学校の生徒にデザインしてもらった「こども110番のいえ」のステッカーを通学路の110番の家に貼った。 「高齢者・要支援者部会」では、災害時要支援者の支援方法について町内自治会や民生委員と協議した。 「防災部会」では、6か所の避難所での避難訓練の実現に向けて取り組んだ。	A	地域運営委員会で、各事業を具体化する取り組みを行った。	
3 見守り体制をつくる	地区部会が、民生委員児童委員協議会や各町内自治会と協議し、見守り活動の仕組みづくりを検討する。	民生委員児童委員協議会で整理している「支援者名簿」を活用し、民生委員が支援者名簿に記載された方の身体状況や世帯状況等について聞き取り調査を行った結果、見守りを希望する方や見守りの必要性のある方は、それほど多くはなかったが、その方々に対する見守りの仕組みづくりについて、町内自治会と民生委員で話し合った。	A	対象者の調査を行い、見守りの仕組みづくりについて協議した。	日常の近所付き合いをコーディネートする人が必要である。
4 災害時に支援を必要とする人の避難支援	災害発生時に備え、避難所ごとの「避難所運営委員会」が迅速に立ち上がるよう、年1回、避難所開設訓練を行う。	6か所の避難所すべてに「避難所運営委員会」が設立されており、各避難所運営委員会が、避難所開設訓練及び避難訓練を行った。	A	避難所すべてで訓練を実施した。	
5 すべての子どもを地域で育てる	地域の子どもの安全確保のため見守り体制の確立を図るとともに、安心安全なまちづくりを目指すことを目的に、学校が主体となって行っている「セーフティウォッチャー」に地域が協力する。 また、「こども110番のいえ」のステッカーを作成し、通学路の110番の家に貼る。	学校が主体となって実施している「セーフティウォッチャー」に地域住民が協力し、登下校時の児童の見守りに取り組んだ。 また、生浜中学校の生徒にデザインしてもらった「こども110番のいえ」のステッカーを作成し、通学路の110番の家に貼った。	A	3小学校全てで実施している。 予定どおりステッカーを貼った。	
15 障がい者施設でのボランティア体験の推進	地区部会が、中学生を対象とし、障がいについて学習する機会を設ける。	地区部会が、生浜中学校と協力し、1年生約200人を対象に、授業の一環として車椅子体験講習会を実施し、障がい者について学習する機会を設けた。	A	年度計画どおり実施した。	
17 福祉情報誌の充実と「中央区ふくし・防災ガイド&マップ」の活用	地区部会が、民生委員の協力を得て、作成した避難行動要支援者の地図の更新を検討する。	地区部会が、災害時要支援者の情報を町内自治会と共有するため、民生委員の協力を得て、避難行動要支援者のうち、同意を得た方を地図に落とし込む形で、平成26年度に作成したマップについて、要支援者の増減による更新を行った。	A	各町内自治会単位で更新した。	
20 防犯対策の推進	地区部会が、交通安全意識の向上を図るため、警察等の協力を得て、交通安全教室を年1回実施する。	地区部会が、千葉県警交通課、中央署、生浜小学校の協力を得て、高齢者及び児童とその保護者を対象に、交通安全の講話等の内容で、「熟年者交通安全教室」を年1回実施し、交通安全意識の向上に取り組んだ。	A	年度計画どおり実施した。 参加者 170人	
21 防災体制の充実	町内自治会の防災会が、年1回以上防災訓練を実施して、地域の防災体制の充実を図る。	第13地区町内自治会連絡協議会の13町内自治会中、5町内自治会で防災会が設立されており、その内、4つの防災会が、地域住民を対象に、消火訓練等の防災訓練を年1回行い、地域の防災体制の充実に取り組んだ。 なお、以前は、町内自治会ごとに防災訓練を実施していたが、現在は、避難所ごとの避難所開設訓練や避難訓練に重点を置いている。	A	概ね実施した。	

【自己評価の目安】

- S: 目標を上回った。
- A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
- B: 一部目標を達成した。(5~7割)
- C: 大きく目標を下回った。(~4割)

平成27年度中央区支え合いのまち推進計画の進捗状況

東千葉地区部会

重点取組項目	27年度の目標	27年度の実績	自己評価	判断根拠	今後の課題
2 ボランティア活動の仕組みづくり	高齢者や障がいのある方など支援が必要な方を対象に、日常生活のちょっとした困りごと等の手伝いをする「ちょっとボランティア」を継続するとともに、利用者の増加を図るため、利用しやすくなるよう仕組みの見直し・改善を検討する。	地区部会が、高齢者や障がいのある方など支援が必要な方を対象に、病院への付添い等(45件)お手伝いし、日常生活の一部支援に取り組んだ。 また、「ちょっとボランティア制度の見直し改善委員会」を設け、年4回にわたり検討を重ね、東千葉ハッピータウンの会(ポイント制による会員同士の相互支援の会)との連携による受付窓口の拡充、利用案内のしおりの記載内容の見直し、利用券の廃止等、「ちょっとボランティア」の仕組みを見直した(平成28年度から新しい仕組みで運用を予定している)。	A	年度計画どおり、取組みを継続するとともに、仕組みの見直しが図れた。 年間利用件数見込 45件 (前年度 49件 8%減) 登録ボランティア 22人	全町内自治会長が1年で交替するので、引き継ぎが難しい。せめて半数が残る仕組みが必要である。 いつでも利用でき、資機材の保管ができる地区部会の活動拠点が欲しい。空き物件を賃借できる助成金制度が必要である。 サロン等で使用する資機材の購入のための助成金が必要である。
3 見守り体制をつくる	地区部会が、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な目配りや訪問による安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、継続して見守り活動を実施する。	地区部会が、高齢者や障がいのある方など支援が必要な方(6世帯)を対象に、日常的な目配りや訪問による安否確認を行い、安心して地域で暮らせるよう、継続して見守り活動に取り組んだ。 なお、利用者の掘り起こしのため、平成28年度、民生委員の協力により、高齢者の実態調査の際、見守りアンケート調査の実施を予定している。	A	年度計画どおり、継続して実施した。 地区部会の6町内自治会すべてを対象に実施している。 目配り6世帯、訪問0世帯	

【自己評価の目安】

- S: 目標を上回った。
- A: 概ね目標を達成した。(8~10割)
- B: 一部目標を達成した。(5~7割)
- C: 大きく目標を下回った。(~4割)

平成27年度中央区支え合いのまち推進計画の進捗状況

新宿地区部会

重点取組項目	27年度の目標	27年度の実績	自己評価	判断根拠	今後の課題
16 中学校区相談・情報センター機能の充実	地域の方々の相談に対応するため、民生委員、町内自治会、あんしんケアセンターが地域の方々の個別の相談に応じ、地区部会が各団体の抱える課題を共有する場を提供する。	民生委員、町内自治会、あんしんケアセンターが地域の方々の個別の相談に応じ、隔月に実施する地区部会の役員会において各団体に情報共有を図った。個別で対応しきれない課題については、地区部会が行政等関係機関と連携して解決に向け取り組んでいる。	B	役員会を6回実施し、情報共有を図った。	マンション等の集合住宅が増加し、新住民とのコミュニティを築く必要がある。 マンション管理組合理事長が1年で交替するので、活動の継続性を持たせる仕組みづくりの整備を図る必要がある。

【自己評価の目安】

S: 目標を上回った。

A: 概ね目標を達成した。(8～10割)

B: 一部目標を達成した。(5～7割)

C: 大きく目標を下回った。(～4割)